

年末年始特集 各波おすすめ番組



総合テレビ

ナイト・コメディー となりのシムラ

12月16日（火）後10：00～10：45



数多の日本中で知られるギャグを持つ、コント界の「人間国宝」。彼が見せる新境地が、「となりのシムラ」である。志村が演じるのは、どこにでもいそうな普通のおじさん。しかし、ちょっとした日常のずれが笑いを生んでいく。視聴者が共感できるあるあるネタを基本にして、志村のリアリティあふれる繊細な演技で、大人の笑いを描く。今勢いのある作家たちの脚本をもとに、実力派俳優たちが競演する。

出演 志村けん 片平なぎさ 田辺誠一 吉田羊 波瑠 ほか

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子3ページをご覧ください

夜だけど…あさいち 年末SP

12月27日（土）後7：30～8：45



8月11日に「夜だけど…あさいち 家庭内別居SP」を放送し、視聴者から多くの反響があった。そこで再び！家族が集う年末に、新テーマに挑戦。今回はすばり“親子関係”。母親との関係に悩む娘の実情はもちろん、父親との関係に悩む娘&息子も取材。放送中もFAXやメールで届く視聴者の声を紹介、キレイゴトなしの生議論の中で、親子関係に悩む人々を救うヒントを見つける。

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子22ページをご覧ください

年末年始特集 新島誕生・西之島 ～日本列島 誕生の謎に迫る～

1月2日（金）後7：30～8：45



映像提供：海上保安庁

私たちが暮らす日本列島は、4枚のプレートがひしめく地球唯一の地殻変動地帯に存在する。この列島は、どのように生まれ、変化してきたのか。番組では“プレートの沈み込みが作り出した絶景”を求めて、日本各地に出発！最大の見どころは、東京から南へ1000キロ離れた小笠原諸島の「西之島」。2013年11月に突如姿を現し、今なおマグマを噴き出し続けている。日本列島の大地の豊かな表情を見つめながら、誕生のロマンに思いをさせるファミリー向けの知的エンターテインメント番組。

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子48ページをご覧ください

大心理学実験 discover psychology

1月1日(木) 後5:30~6:00

人は共通した心理作用によって、無意識のうちに似通った行動をとっている。世界中の心理学の研究者たちは、これまで極めてユニークでアイデアあふれる華麗な実験方法を編み出し、人の行動を通して、心や進化の意味についての解明に挑み続けている。そこでこの番組は、心理学者たちが編み出してきたユニークで華麗な心理実験をスケールアップして再現し、大規模に行う。人はどのようなときに手抜きをするのか？なぜ他人に同調するのか？同調しないようにするにはどうすればよいのか？人の印象の決め手とは？など、心理実験を通して人の本音を描き出し、無意識にそうしてしまう人の進化の意味に迫る。

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子85ページをご覧ください

100分de日本人論

1月2日(金) 後9:30~11:10

誰もが一度は読んでみたいと思っているものの、なかなか手に取ることが出来ない名著を25分×4回=100分で紹介する「100分de名著」。これまで放送された中で特に人気が高いのが、「古事記」や「万葉集」、柳田国男「遠野物語」など、日本や日本人の原点を見つめなおすシリーズだ。

そこで、「100分de名著」では、スピンオフ年始特集として「100分de日本人論」を放送する。番組では、様々な分野の専門家がスタジオに集まり、「自分がおすすめる日本人論」の名著を紹介する。そして「宗教性」「美意識」「死生観」「心理」など様々なキーワードで日本や日本人のあり方を探りながら、鈴木大拙「日本的靈性」、九鬼周造「『いき』の構造」、折口信夫「死者の書」、河合隼雄「中空構造日本の深層」等、難解な名著をわかりやすく読み解いていく。

プレゼンター：中沢新一（明治大学教授）

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子94ページをご覧ください

SWITCH インタビュー達人達(たち)スペシャル

年始特番「会いたいあの人と感動の対面！SP」

1月3日(土) 後10:00~11:00

異なる分野で活躍する2人の達人が出会い、仕事の極意を語り合う「SWITCHインタビュー達人達」。年始スペシャルとして、これまでに登場した達人に「会いたい」人が会いに行く特別版をお送りする。宇宙飛行士・若田光一(51)が会いたいと名を挙げたのは、芥川賞作家の平野啓一郎(39)。文学や芸術が科学の発展に影響を与えたケースは数多い。来たるべき宇宙新時代、人類は何を経験し、それは社会や人々の価値観にどんな影響を与えるのか。「宇宙飛行士の実体験」×「文学者の想像力」でもって、宇宙と人類の未来について考える。

さらに、番組レギュラーナレーターを務める俳優・六角精児と吉田羊も、これまでの出演者の中で番組を通じて興味を持った人に会いに行く。吉田は憧れの北欧出身のフラワー・アーティスト、ニコライ・バーグマンのもとへ。六角は「超文化系・運動嫌いの自分とは対極の」肉体派・武井壮との対面を果たす。

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子100ページをご覧ください

●プロ野球 “夢のベストナイン”

12月19日(金)・26日(金) 後11:00~11:50



プロ野球が始まって80年。「王、長嶋に勝る選手はいないさ」。「いやダルビッシュの変化球は打てないよ」。世代を超えた野球ファンの議論は尽きない。ならば、“時代を超えたセ・パ最強のベストナイン”を決めようという番組を放送。ホームページでセ・パ最強ベストナインをポジションごとに投票を呼びかけ、総数はおよそ5000に上った。その投票結果をもとに徹底討論し、セ・パのドリームチームを選ぶ。▼第一回は「決定!セ・パ最強のバッテリー」。あなたは、速球派、変化球派、制球派?伝説の名投手は?

▼第二回は「今夜決定!最強のベストナイン」。やはり一・三塁はあの人しかないのか?選ぶ基準は、打撃?それとも守備?伝説の外国人選手は?

出演・渡部建(アンジャッシュ)、徳光和夫、伊集院光、加藤晴彦、井森美幸、中尾明慶、藤田憲右(トータルテンボス)古田敦也、小宮山悟

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子103ページをご覧ください

●BS1スペシャル「時代をプロデュースした者たち

第1回 大リーグを超える 川上哲治とV9巨人

12月20日(火) 後7:00~8:50



ベースボールマガジン社

昭和20年の敗戦の焦土の中から立ち上がり、文化の復興と創造に生涯を傾けた男たちがいた。彼らの合言葉は「アメリカに追いつき、追い越せ」。プロ野球・建築・芸能界・テレビアニメの世界で、今日の繁栄へとつながる基礎を築き上げた4人の人物とその仲間たちの戦いの軌跡を描くシリーズ。第1回の主人公はV9を成し遂げた巨人監督・川上哲治。番組では、選手時代に川上がアメリカで受けた衝撃を綴った日記や腹心・牧野茂コーチの作戦ノートなど未公開の資料を発掘。また王貞治、森祇晶などのV9戦士、ライバルとして日本シリーズを戦った野村克也、山田

久志などが語る秘話を交え、川上がどのようにしてチームプレーを浸透させ、日本のプロ野球をどう変えたのかを明らかにする。

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子104ページをご覧ください

グレートレース 限界に挑む

1月3日(土)・4日(日) 後9:00~10:50

※プロローグ 12月21日(日) 後7:00~8:50



灼熱の砂漠や標高4000mの高地などを駆け抜けるエクストリーム(究極の)レースが世界各地で開かれ、絶大な人気を博している。レースの種目は、ランニング、マウンテンバイク、カヤック、パラライダーなど様々だが、各国から集まるアスリートたちは、いずれも自分の体力と知力だけを頼りに、過酷な大自然に立ち向かう。2015年1月からの「グレートレース」シリーズでは、インド洋マダガスカル250キロマラソンやオーストラリア770キロマ

ウンテンバイクレースなど、4つのレースに密着する。

キャスター: 三浦貴大(俳優)

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子105・112・113ページをご覧ください

ザ・プレミアム 北川景子 垂直タイムトラベル in ローマ

1月1日(木)・2日(金) 後7:00~8:00



永遠の都、ローマ。この街では垂直方向に上下するだけで、数千年のタイムトラベルができる。ミケランジェロ設計の建物の地下に、古代ローマの公文書館が！シーザーが建てさせた劇場の上に中世の集合住宅が建て増しされ、そこに今も住民が住む！今と昔が積み上がって見事に共存しているこの街を旅するのは、イタリアの歴史文化に憧れを抱く女優・北川景子。特にルネサンス芸術が好きだという彼女が、考古学者、没落貴族など、旅先で出会う様々なローマっ子の案内で、地下にもぐり屋根に登り、1週間の「垂直タイムトラベル」を堪能する。

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子146ページをご覧ください

ザ・プレミアム 草間彌生の富士山 ~85歳・浮世絵への挑戦~

1月1日(木) 後8:00~9:30



水玉と赤いカツラがトレードマークの前衛芸術家・草間彌生、85歳。現代アートのトップを走る草間が、今回、「浮世絵」に初めて挑戦した。もともと草間が若い頃、初めて専門的に絵を学んだのは日本画だったが、保守的な制作環境に馴染めず、日本画を捨て、海外で芸術活動を続けてきた。しかし、晩年を迎えた今、改めて日本の伝統と向き合い、“誰にも真似の出来ない新しい日本の表現”に挑もうとしているのだ。

テーマは、世界遺産に登録された「富士山」。これまでの水玉や網目といった抽象的な世界から一転、多くの画家たちが手がけてきた日本の象徴に向き合う。

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子147ページをご覧ください

ザ・プレミアム 京都人の密かな愉しみ

1月3日(土) 後9:00~11:00



一見さんでは訪れることのできない非公開の庭園、ごく限られた人しか愛することのできない国宝級の掛け軸。千年の都(京都)には一見さんではわからない、伝統と文化、そして美が今も折り重なっている。観光客の立場ではなかなか接することのできない町の真の美しさ、穏やかさ、磨き抜かれた生活文化の深さをドラマとドキュメンタリーで、「京都人が愛する京都」を美しい映像と季節ごとの情感を織り交ぜ描く。

出演：常盤貴子 団時朗、林遣都、谷村美月、中村ゆり、福士誠治、余貴美子 他

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子152ページをご覧ください

ラジオ第1

福島から2時間出してるラジオ

1月1日(木) 前10:05~11:55

福島への疑問に答え「元気」を発信していく、元日のトークバラエティ番組。
東日本大震災・原発事故からもうすぐ4年になる。原発関連の大きなニュースに隠れてなかなか見えてこない「福島日常」。番組では、そんな福島への「疑問・質問」について全国のみなさんにアンケートを実施する。「福島の人たちはどんな生活しているの?」「放射線が気になって暗い生活?」「食べ物は何?」など、全国から寄せられる様々な声にしっかり、そして楽しく答えていく。

司会：芳賀健太郎アナウンサー（NHK福島・いわき市出身）

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子171ページをご覧ください

蜷川幸雄のクロスオーバートーク

～第1回 ジャニー喜多川～

1月1日(木) 後9:05~11:00

演出家 蜷川幸雄(79)が、様々なジャンルの巨匠の現場を訪れ、彼らの極意を聴くスペシャルインタビュー。来年デビュー60周年、ライフワークとも言えるシェイクスピア劇の連続上演など、常に最前線での挑戦を続ける蜷川さんが、他分野の逸材と交わる瞬間に引き起こされる“化学反応”を楽しむシリーズ。第1回は、50年以上にわたり日本の芸能界とともに歩んできたジャニー喜多川さん(83)を迎える。フォーリーブスに始まり、たのきんトリオ、少年隊、光GENJIといった、日本を代表するアイドルを次々と育てあげ、現在も、SMAP、嵐といった、アジアをはじめ世界各地に幅広いファンがいるアイドル集団を育て続けている。ギネス世界記録に「最も多くのコンサートをプロデュース」「最も多くのNo.1シングルをプロデュース」「最も多くのチャートNo.1アーティストをプロデュース」として認定されるなど、世界的にも注目されている。これほどの功績を残しながら、メディアで自らについて多くを語ることはなかった。半世紀にわたる旧知の仲である蜷川さんが、ジャニー喜多川さんの素顔に迫る。

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子174ページをご覧ください

「レジェンド」を生きる～「レジェンド葛西」と「キング・カズ」が会う～

1月2日(金) 後9:00~10:30



『レジェンド』— 生きながらにして“伝説”と呼ばれる人がいる。

ソチオリンピックのスキー・ジャンプで、2つのメダルを獲得した“レジェンド葛西”こと葛西紀明選手。そして、その葛西選手が「レジェンド」の筆頭に挙げるのが、日本サッカー界のパイオニア的存在、“キング・カズ”こと三浦知良選手だ。葛西選手42歳、そして三浦選手47歳。共に現役最年長選手である。

番組では、「1998年」という運命的な共通点を起点に、未開の地をただひたすらに突き進む2人のアスリート像に迫っていく。あの時、本当は何を思っていたのか。なぜ闘いつづけるのか。

この2人にしか分かり合えない“真実”が、ここにある。

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子177ページをご覧ください

ラジオ第2

恋する百人一首 ～女子力みがく新年女子会～

1月1日(木)・2日(金) 後9:00～10:30

百人一首は100首のうち43首までが“恋歌”で占められている。男女のコミュニケーションに欠かせなかった“恋歌”のやりとり。そこで繰り広げられた恋愛ドラマを想像することは、何歳になってもロマンチックで、ときめきと脳の活性化をもたらしてくれる。そこで、五七五七七に込められた切ない思いを読み解き、時代を超えた共感を呼び起こすラジオ女子会を企画。年の初めにふさわしく、古に学び、教養を深めることで、今年の恋がうまく進むことを祈る「縁起のいい、新年女子会」恋愛が文化を育んできた日本古来の文学の伝統を学び、現代的“女子力”について、楽しく考察する番組をお届けする。

出演：大宮エリー、山口仲美（埼玉大学名誉教授）、加藤千恵（歌人・作家）ほか

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子183ページをご覧ください

音で訪ねる ニッポン時空旅

1月1日(木)～3日(土) 前7:00～8:00

祭り、伝統行事、各地で歌い継がれてきた民謡などの貴重な録音が、NHKアーカイブに残されている。柳田國男をはじめ、折口信夫、小泉文夫など、なだたる研究者が参加した一大プロジェクトが残してきた国民的財産だ。そこで、「生きた音、人の声を聴いて、改めて、日本の音を解き明かしたい」と考えるアーティストをゲストに迎え、「時空を越え、日本の各地へ、想像力の旅を行う」ことにトライ。録音の背景となる時代状況について、研究者の解説を交えながら、音からイメージできる“ニッポンの暮らし”を語り合い、過去から未来へと受け継ぐ“音の遺産”を聴きなおよすひと時を提供。

出演：時空旅案内人／永野宗典・本多力（劇団・ヨーロッパ企画）、研究者／島添貴美子（富山大学芸術文化学准教授）、ゲストアーティスト（Sam Leeほか）

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子181ページをご覧ください

新春朗読特集「アンネの日記」

1月1日(木)～3日(土) 後2:30～4:00



古今東西の文学作品を朗読し、作品をじっくり味わってもらふ番組「朗読」。年末年始特集番組としてアンネ・フランクの「アンネの日記」を取り上げ、連続3夜（90分×3回）で放送する。

ご存知のように「アンネの日記」はナチスに追われ、アムステルダムの隠れ家でユダヤ人少女アンネ・フランクがつけていた日記で、13歳から収容所に送られる15歳までの2年余りにわたり、身を切られるような日常を綴ったもの。思春期の少女とは思えないほどユーモアやウィットに富み、恋の悩みや素直な性表現の一方では人間に対する

鋭い洞察力、時代や周囲に対する批評眼の非凡さにも目を奪われる。

知ってはいるけれど読んだのは小学校の時の教科書の中だけ、女の子が読む物だと思っていて読んだことはない、と言う方々、アンネ・フランク没後70年になる2015年初頭に、魂の叫びともいえる類稀なる“心の日記”を、全国のリリスナーの許に届ける。

★2009年 ユネスコによる世界記憶遺産指定、「世界で最も読まれた10冊」のうちの1冊に指定。

朗読：竹下景子

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子182ページをご覧ください

F M

今日是一日「ウォルト・ディズニーアニメ音楽」三昧

12月23日 (火) 後0 : 15~9 : 00

今年「アナと雪の女王」の挿入歌『Let it go』が大ヒットしたが、ディズニーアニメと音楽の関係は今に始まったことではない。映画に音が付いた時代から、ディズニーアニメは音楽とともにあった。ミッキーマウスが初めて『藁のなかの七面鳥』を演奏して見せたのは1928年。そのアニメーションと音楽の見事なシンクロは「奇跡」と言われた。さらに「狼なんかこわくない」(三匹の子ぶた) / 「いつか王子様が」(ハイ・ホー) (白雪姫) / 「星に願いを」(ピノキオ) / 「ビビディ バビディ ブー」(シンデレラ) など、みんなが知っている音楽は全てディズニーアニメから生まれたのである。ミッキーマウスが初めてアニメの中で音楽を奏でてから今日まで、ディズニーアニメ音楽の86年を、9時間で振り返る生放送である。

進行：鈴木奈穂子 (NHKアナウンサー) 解説：浮田久子 (エンターテインメントライター)

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子187ページをご覧ください

星野源のラディカルアワー・リターンズ!

12月29日 (月) 後10 : 30~前0 : 00

俳優・音楽家・文筆家としていまや大活躍の星野源をパーソナリティーにむかえ、2013年4月から隔週金曜日の放送でスタートした「星野源のラディカルアワー」。

ティーン層を中心に絶大な反響を得たこの番組だが、当時なんと3ヶ月で本人の病気療養に伴う活動休止により終了(星野は今春完治し活動再開)。

そんな「星野源のラディカルアワー」が、今回一夜かぎり、1年半ぶりに奇跡の大復活をとげる!!

年末スペシャル番組として、レギュラー時にもまして熱い“ラジオ愛”を語りながら、さまざまな企画コーナーや、その幅広い音楽へのリスペクト作品を紹介し、リスナーとのやりとりを展開する。

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子196ページをご覧ください

坂本龍一 ニューイヤー・スペシャル feat.ユザーン

1月1日 (木) 後10 : 00~前0 : 00

毎年元旦に放送し、2015年で10回目を迎える「坂本龍一 ニューイヤー・スペシャル」。リスナーからお正月の定番として親しまれているが、坂本龍一が、現在NYでガン治療に専念しているため、今回は、自らが決めた内容でピンチヒッターにDJをしてもらうというもの。

ピンチヒッターは、坂本氏がアルバムにも参加し、大きな信頼を寄せている、タブラ奏者のU-zhaan (ユザーン)。U-zhaanが、坂本龍一から提示されたミッションに従い、坂本ゆかりのミュージシャンや文化人とトーク&スタジオセッションを敢行する。

ピンチヒッターDJ : U-zhaan (ユザーン)

※詳しくは「平成26年度NHK年末・年始特集号」冊子204ページをご覧ください